

2016年3月期通期決算発表に関する主なご質問

2016.5.17

Q: 2017年3月期の営業利益が前期比120億円の増益予想になっていますが、その要因は何ですか？

A: 120億円のうち、50億円が無形資産償却費の減少、残り70億円が実質の営業利益の改善になります。70億円のおおよそ半分は2016年3月期末に決定した不採算事業の撤退・縮小による利益改善です。残り半分は定期修繕件数の減少や燃料コストの減少、プロダクトミックスの改善や内部コストの低減での改善を見込む一方、インフレによるコスト増加も考慮しています。

Q: 欧州建築用ガラスの価格は、2017年3月期にどのように推移すると見込んでいますか？

A: ゆるやかな改善を見込んでいます。

Q: 2017年3月期の欧州自動車用ガラス、建築用ガラスの市場状況はどのように想定していますか？

A: 前期からマクロ指標の改善が見られ、今期もゆるやかな改善が続くと想定しています。

Q: 2017年3月期の欧州自動車用ガラスや北米自動車用ガラスの利益水準は改善しますか？

A: 前期は製品構成の悪化や、オペレーションで課題がありましたが、今期収束を図り、利益改善を見込んでいます。

Q: 高機能ガラス事業の状況はどうなっていますか？

A: 各セグメントとも、第3四半期から大きく基調は変化していません。ディスプレイ事業の厳しい市場環境は今期も継続すると見込んでいます。2016年3月期末に決定した設備の一時休止による固定費削減や、新組成ガラス glanova® の拡販により利益改善を図ります。

Q: 2017年3月期にフリー・キャッシュ・フローを3桁億円見込むということですが、具体的にはどの要因によるものですか？

A: 営業利益の改善、資本的支出の抑制、資産流動化の効果などです。

Q: 2017年3月期の資本的支出、減価償却費、研究開発費の水準はどのくらいですか？

A: 資本的支出は前期より抑え目で200億円台半ばのレベル、減価償却費・研究開発費は前期並みを想定しています。

Q: 足下では原油価格が45ドル/バレル前後で推移していますが、2017年3月期への影響はありますか？

A: 当社は燃料の一部を予約購入しており、その水準の場合、2017年3月期の燃料コストは前期比減少すると見込んでいます。

Q: 為替変動の営業利益に対するインパクトはどれくらいですか？

A: 海外全通貨が10%対円で強くなれば、円換算の営業利益は2桁億円増え、逆の場合は減少します。

Q: 2017年3月期の個別開示項目は通期で10億円との見通しですが、80億円規模の資産流動化による収益が同日に開示されており、約70億円の個別開示項目費用が想定されますが、この内容は何ですか？

A: 欧州や北米でのビジネス改善策、生産ラインの効率化を図る費用を想定しています。

当資料中には、将来の当社の業績・当社を取り巻く環境に対する予想の部分があります。これは当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績・環境は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（欧州、日本、北米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。